

005 Cacco

夜明けの縁をさ迷う人々 小川洋子 角川書店

短編集。毎日川原で野球をする少年と、やはり川原で毎日練習をしている女曲芸師。ふたりの間に友情のようなものが通い合う。他にエレベーターで生まれエレベーターの中で生活し、そこから離れた瞬間息絶える大人になっても小さな男の話他。タイトルの通り夜明けの縁をさ迷う人々の九つの物語。とても面白いです。



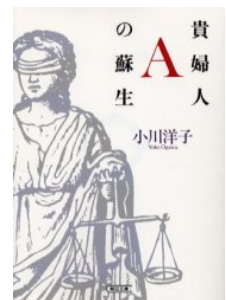
海 小川洋子 新潮社

無国籍な雰囲気漂う短編集。小川洋子さんの小説にはよく素敵な職業が登場する。ほんとにあるのか？あったら素敵だなという感じの。「バタフライ和文タイプ事務所」は、二階にいつもいるのだけれど壊れた活字を渡すときの手だけしか見えない「活字の直し人」。彼に心ざわつかせる女事務員のお話。なぜこんな奇妙なシュチエーションを思いつくんだろう。短編の見本みたいじゃないかといつも思うんです。



貴婦人Aの蘇生 小川洋子 朝日新聞出版

ある日叔父が不慮の死を遂げる。家庭の事情で残された叔母と姪である主人公との同居生活が猛獣館と呼ばれる剥製だらけの館で始まった。叔母はある日を境に自身を皇女アナスタシアだと名乗り毎夜叔父の残した剥製に「A」の文字を刺繍していく。まったく奇妙な設定。剥製雑誌の編集長や姪の男友達が、また奇妙さを増幅させる。その男友達は強度の強迫観念から儀式をせねばドアを開けられない。その込み入った儀式がおかしい。わたしも軽度とその傾向があるのでかれの気持ちはよくわかる。わたしの場合は外に出る時が大変。指差し点検何回してもなかなか家から出られない（笑）



犬のしっぽを撫でながら 小川洋子 集英社

「博士の愛した数式」の前後に書かれたエッセイをまとめたもの。若いころに数学者藤原正彦氏の著書を読み、いつか数学者の小説を書こうと思っていたことなどが書かれていて興味深い。後半は飼い犬のラブとの暮らし、大好きな阪神タイガースと自分との関わりなど。筆者の阪神好きはわたしとまったく同じ。彼女の気持ちがわかりすぎるくらいわかる。何があっても阪神への愛は変わらないけれど今年の阪神タイガースについて彼女はどう思っているのだろうか。もう来年モードに入ってるかな？こんなに強い絆を持つチームとファンってとっても幸せ。阪神大好き。阪神ファンみんな友達。もちろん「博士の愛した数式」の博士も阪神ファン。これはたまらない。



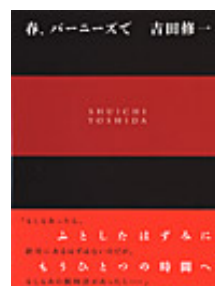
天才の栄光と挫折 藤原正彦 文藝春秋

ニュートン、関孝和、ガロワ、ハミルトン、コワレフスカヤ、ラマヌジャン、チューリング、ワイル、ワイルズという9人の数学者の人生を著者が現地まで訪れ辿って行く。先の小川洋子さんのエッセイを読んで読みたくなくて即購入。抜きんでた才能を持つ数学者たちはその日常生活は不遇と言える人たちが多く。神様からもらった才能は平凡な幸せとは折り合わないのか。人生ってのはフラットになるようにできているのではないかと思わせられる。数学に対して見せるかれらの集中力には強い憧れを感じる。



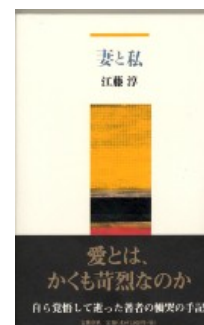
春、バーニーズで 吉田修一 文春文庫

この間DG幽霊会員のグリコちゃんとぼったり会ったときに「今小説は何がオススメ？」と聞いたら吉田修一さんの名前が。前に「パレード」を読んでいるのでこれが2冊目。「は一ん、グリコちゃんはこの本が好きなのか」。感情の起伏を抑えたさらっとした読み応え。内容は重いのに筆致は軽い。子連れバツイチの女性と結婚し、彼女の家の入り婿となった主人公。そんな生活が自身も気づかぬうちにすこしづつ歪んでいく。短編連作。最後の「楽園」では突然会社も家庭も放棄してしまった男がいる。かれの生活がそんなにずれを起こしていたことにやっとラストになって気づく。軽く見えていたものは実はすごく重かったのか。で、グリコちゃんはこの小説が好きなんだとまた考えてしまう。



妻と私 江藤淳 文藝春秋

癌を告知された夫人と文芸評論家である夫・江藤淳氏との闘病記。発表当時は確かベストセラーになったと思う。1998年暮れ夫人が死去。その後「妻と私」を著し、翌年の夏自宅にて自殺する。いろいろなひとたちがいて様々な生き方がある。妻を看取り自分で自分の最期を決めた生き方もアリだなと思うけれど、闘病記中の夫婦関係についてはあまり共感はしない。わたしが夫人だったら夫になにを求めるだろう。夫だったら夫人にどうやって応えるだろう。氏の生き方はわたしとは重ならないんじゃないかと思う。



クローズドノート 雫井修介 角川書店

引っ越ししたマンションの部屋には前の住人の忘れもの「日記」が残されていた。映画の予告を見てストーリーに惹かれていたのだけれど、本はどうも冗漫な印象。まず日記を読み始めるまでの導入部が長すぎる。主役の女子大生、他の登場人物たち誰にも感情移入できないのも大きい。彼女の生き方は少なくともわたしにはあまり魅力的に感じられない。短編にして違う作家（乙一とか^.^）が書いたら面白くなるかも。って、それじゃまるで別の作品だって！



004 TICA

題名	著者	コメント	コメコメ
果てしなき 渴き	深町秋生	別れて暮らす高校生の一人娘が失踪。元刑事の父親が娘の痕跡を追ううちに娘と麻薬の関わりの深さを知ってしまう。 父親の行動の現在といじめられていた少年の過去が交差する進み方に興味を惹かれて買ったが、誰一人として魅力的な人物は出てこないし、全くもって救いのない話だった。「このミス大賞」だもの、この流れのままじゃないだろうという期待を裏切り、どこまで読んでも気分が悪くなる話だった。と、友達に話したらタイの人身売買や臓器売買の「闇の子供たち」という本の方が最悪だと。そりゃドキュメントだもの、そちらの勝ち。絶対に読まない。	これで「このミステリーが最高」大賞作★
内儀（かみ） さんだけは しくじるな ～目白・柏木・黒門町	古今亭八朝 岡本和明	師匠をしくじれば破門、内儀さんをしくじれば破滅といわれている落語界の裏話を弟子たちが座談会形式で語っていく。鬼籍に入ってしまった小さん、圓生たちと個性的なおかみさんたちの不条理ともいえる言動に昭和の落語家の生活が見えて楽しい。	落語のCDが聞きたくなった。☆☆★
西の魔女が 死んだ	梨木香歩	イギリス人の祖母が住む田舎で暮らすことになった孫の中学生。魔女の家系だと教わり規則正しい生活、自分のことは自分で決めるという魔女修行が始まる。「となりのトトロ」がなぜ嫌いかという、行方不明になったメイの名前を呼びながら一生懸命探しまわっているおばあちゃんを下に見ながら、ネコバスに乗った当人のメイとさつきがお母さんの元へ向かうところが許せない。 この本も、近所に住む男のことで仲違いをしたまま祖母の家を出てそのまま逢うこともなく祖母が亡くなる。そこが嫌い。その男にだまされて土地を奪われてしまうわけだが、そんな男がいることを知っていてなんで二年も放っておくのか、感性が豊かな中学生なのに孫と変な別れ方をして残った祖母の淋しさを想える力がなぜないのか、とジジババ子だった私は単純に思ってしまうわけですねー。 祖母はそれでも孫を愛してるし、許しているのはわかっているんだけど。	「夢を叶える象」で、成功するための神様の教えは「靴をみがく」とか「コンビニで募金する」とか地味なものばかり。魔女の修行と似てる。☆☆

<p>きみの友だち</p>	<p>重松清</p>	<p>健ちゃんは最近ドラマ「1リットルの涙」とか「クローズドノート」がお気に入り。「クローズドノート」にボロクソな意見しか言わない私や Cacco さんに顔を顰める。そんなロマンティストな人からこの本も借りました。ちなみに「1リットルの涙」はドラマで1、2回見たけれど、本の重さがまるでないお手軽なドラマでした。</p> <p>あーあ、また健ちゃんがすごい顔するなあ。。</p> <p>重松清は<私の好きな作家5人>になら入れた。この本や「その日のまえに」はきっと多くの人のツボにはまる話だと思う。</p> <p>小学生の時に車の前に飛び出し足を悪くした恵美ちゃんのともだちは、腎臓病を患っていてゆっくりなペースでしか歩けない由香ちゃん一人。その二人の話や、恵美ちゃんの弟ブンちゃんやブンちゃんの「親友」や先輩たちを主人公にした10の話。</p> <p>話をまわす男の人が各章の初めに出てきてその入り方がとても好きだった。文庫化にあたり、最後の章を増やしてその人の正体がわかるが、あまりにも綺麗にまとまりすぎ。後日談がないまま終わるのもよかったんじゃないかな。</p>	<p>重松清は、浜省ファン。よい人なのです。☆☆☆☆</p>
<p>対話篇</p>	<p>金城一紀</p>	<p>本当に愛する人ができたら、絶対にその人の手を離してはいけない。なぜなら、離れたとたんに誰よりも遠くへと行ってしまふから——。最初で最後の運命の恋、片思いの残酷な結末、薄れてゆく愛しい人の記憶。愛する者を失い、孤独に沈む者たちが語る切なくも希望に満ちたストーリーたち。真摯な対話を通して見出されてゆく真実の言葉の数々を描いた傑作中編集。新潮社</p> <p>どう書いていいかわからなかったから、hpからいただいできた。</p> <p>乙一、宇江佐真理、雫井脩介を好きな作家三人に選んだが、金城一紀が入るのかもしれない。好きな作家だけ 答えはいつつ にすればよかった (*^_^*)</p>	<p>感想は、「面白かった」。☆☆☆☆</p>

ジョーカー ゲーム	柳 広司	昭和初期の帝国陸軍内のスパイ養成学校D機関を舞台にくとらわれないこと>を信条とするスパイたちを主役にしたミステリー仕立ての5編。 この人の「漱石先生の事件簿」はつまらなくて途中でやめたけど、これはとっても面白かった。結城中佐をはじめ、登場人物がかっこいいし、それ以上に話がかっこいい。ついでに言えば、web KADOKAWAで作者の映像を見たらこれまたかっこのよいお人でした。	☆☆☆☆ ☆
流星の絆	東野圭吾	ハヤシライスが評判の食堂を経営する両親は兄妹3人が流星を見に行っている間に惨殺された。成長した3人は詐欺を繰り返しているうちに、両親の殺害現場から逃げた男を見つける。いま東野圭吾の本がベスト10に3冊入っている。書けば当たる状態。数と面白さはもちろん比例しない。	ジャニ系 主演クド カン脚本 のドラマ やってま す☆☆
ガリレオの 苦悩	東野圭吾	長編の「聖女の救済」と同時発売。こちらは連作。どちらもドラマで高視聴率だった「ガリレオ」シリーズ。最初の2編はドラマで見ていたせいか、本の中でも登場人物がすっかり福山雅治の口調で話してしまう。うっげーっ	☆☆

<漫画>

ブラッディマンデイ 1~4 恵広史×龍門諒

日本で起きたロシア諜報員の殺害事件から話は始まる。テロ集団が企てるウイルスばら撒き計画「ブラッディ・マンデイ」に深く関わって行く高校生のスーパーハッカー・高木藤丸。公安調査庁に属する父親は連続殺人の容疑をかけられ逃亡中。藤丸に協力するのもやはり高校生。やたらと甘い設定が目につくけど、もともといかにも漫画的な話だからね。

テレビドラマにもなったので見た。漫画のコメディっぽさはなくドラマは全編シリアスだった。藤丸役は「14才の母」で頼りない15才の父になったキリちゃん(三浦春馬)。高校生になってずいぶん成長したね。

空は元気かい？と声をかけてあげたくなった。

ジブン、ただのおばさんッス。



007 yuko

あやし	宮部みゆき	宮部さんの時代物、面白いです。特にこの手のものが好き。宮部さんらしい語り口で、おどろおどろしさもあるけれど、面白く読めた。	
妻恋坂	北原 亜以子	やはり江戸ものの短編集。北原さんも時代物を書かせるとうまいという評判なので、読んでみた。宇江佐さんの方がどちらかというところ好きだけれど、さらりと読めた。	
深川恋物語	宇江佐真理	お気に入りの江戸人情集。宇江佐さん、うまいです。いろいろと勉強になります。「下駄屋おけい」「がたくり橋は渡らない」他	
甘露梅	宇江佐真理	今、資料集めしている吉原もの。どんな資料を読むより、宇江佐さんの短編を読むことが、ずっと吉原、郭の人間の事が詳しくわかる。	
泣きの銀次	宇江佐真理	泣きの銀次と異名を取る、下っぴきの銀次。おろく（被害者の死体）を前にすると、声をあげて泣いてしまう。それゆえのありがたくないあだ名だが、これには深い事情がある。	
あやめ横丁の人々	宇江佐真理	宇江佐さんは裏切らない。人情ものはぴかいち。わけありの人たちの、それぞれの物語。面白い。	
紫紺のつばめ	宇江佐真理	粹な深川芸者お文。髪結い伊三次とのからみもあり、とても面白く読んだ。深川芸者は乙粹だ。	

余寒の雪	宇江佐真理	短編集。どれも面白い。 宇江佐さんの短編は、どれも読んだ後、さわやかな気持ちになれるのが良い。
涙堂 琴女癸酉日記	宇江佐真理	これ、お勧めです。 琴女の日々の書きとめが軸になっている。世相も江戸の状況もとても良くわかる。
斬られ権佐	宇江佐真理	Tica ちゃんのお勧めでもある。 最後は思わずほろり・・・ 権佐の切ないほどのあさみに対する思いも心に残る。
グーグーだって猫である	大島弓子	コミック。猫というキーワードのみで買ってしまった。 大島弓子さんはどことなく妹に似ている。癌治療をしていたころの妹を思い出した。
散るぞ悲しき	梯 久美子	どうして買ってしまったのだろう。 ノンフィクションだし、戦争ものだし・・・私のもっとも苦手な分野なのに・・・硫黄島総指揮官 栗林忠道。やっぱり切なくなった。



001 健

	読書日 2008年	タイトル	著者 出版社	表紙	コメント	評価
1	0429- 0430	九つの、物語	橋本 紡 集英社 1,365円		<p>題名はサリンジャーの「九つの物語」をもじったもので9編の短編で構成されている。水害で無くなった兄が大学生のゆきなのもとに幽霊となって帰ってくるいわゆるゴーストもの。それぞれの話には文学作品の名前が付いている。物語りは2人を中心に展開され、ゆきなが兄の本棚から選ぶ作品が彼女の気持ちと重なったり、兄の一言の解説がゆきなの生き方へのヒントとなり心に響くものになっている。それにしても「山椒魚」のラストを削った改作があるのは知らなかった。</p> <p>1985年の事で文壇・読者の間に起こった改変論争は大変なものだったらしい。自分も好きな作品だっただけにこの章は特に興味深く読めた。</p>	
2	0430- 0501	鴨川ホルモー	万城目学 産業編集 センター 1,260円		<p>ストーリーは、4大学(京都産業大、立命館、龍谷、京大)の間で代々伝わってきた「ホルモー」という非現実的で秘密の競技を主宰するサークルに、新入生たちが引き込まれるところから始まる。始めの1/3ぐらいまではホルモーなるものの実態が明かされず新入生だけでなく読者もじつれたく思うが淡い恋あり友情ありの青春小説。京都の町並みが作品によく融け込んでいる。</p>	
3	0501- 0502	相棒劇場版 絶対絶命! 東京ビッグシティ マラソン42.195km	司城志朗 小学館 1,470円		<p>TV朝日系列の相棒は目下好きな番組。 冷静かつ洞察・推理力鋭い特命係の杉下右京(水谷豊)と体育会系の熱血漢亀山薫(寺脇康文)のコンビがぴったり。脇役も個性的なキャラ・配役が絶妙で大人の番組。映画よりTVサイズが合うと思うが人気と開局50周年の企画として映画化されノベライズされたもの。 但し映画と小説は犯人が違っている。この辺は小説のほうが納得できる。</p>	
4	0502- 0502	ザ・万歩計	万城目学		<p>「鴨川ホルモー」「鹿男あをによし」の著者で初のエッセイ集。1976年大阪生まれ、京大卒だけに京都の雰囲気を取り入れた青春小説がうまい。内容は雑誌・メディアから寄せ集めたもので話題は豊富。突発的に行ったモンゴルの旅の章が面白い。</p>	
5	0503- 0504	東京バンドワゴン	小路幸也 集英社 1,890円		<p>懐かしきホームドラマへのオマージュとして書かれたもの。わけありの四世帯家族の周りに起きる些細で奇妙な事件。東京バンドワゴンは古書店と喫茶店が隣接した一軒の店の名。ここの家族が解決する奇妙な事件の裏に隠された人情話。作りすぎる嫌いはあるが登場人物はいかにもTV向きの個性的キャラを持つ家族が勢揃い。</p>	

6	0504-0505	有頂天家族	森見登美彦 幻冬舎 1,575円		著者の「きつねのはなし」を読んだときは和風の奇妙・幻想にちよっぴりホラーを効かせたほど良さに惹かれ注目していたが本線はインテリ的ほら話に向かっている。主人公は狸。同族間の家争いかつ仇討ちものになっている。天狗、人間、その他様々な者が争いに巻き込まれる。ハチャメチャと会話に乗れば面白いが乗れないと単なる与太話だが構成はしっかりしている。
7	0507-0510	スメラギの国	朱川湊人 文芸春秋 1,890円		志郎の新居の前には、猫が不思議と多く集まる空き地があった。そこを駐車場がわりにしたこと从不注意で猫を死亡させてしまい人智を持った猫達から攻撃の対象となり凄惨な闘いが始まる。恐怖、人間の醜さが描かれ猫好きには耐えられない描写あり。
8	0510-0513	壁抜け男の謎	有栖川有栖 角川書店 1,890円		犯人当て小説から近未来小説、著者が敬愛する作家へのオマージュ、本格パズラー、そして官能的な物語まで、全16作品を収録。作品の品揃えが小粒で雑多な感じ。
9	0514-0521	巨船ベラス・レトラス	筒井康隆 文芸春秋 1,200円		出版不況、文学の衰退。現代日本文学界の状況を暴露し問題点を衝く小説。著者は「言葉狩り」問題で断筆した過去があり個人的な恨みにも取れるパートあり。
10	0523-0527	精霊探偵	梶尾真治 新潮文庫 620円		交通事故で妻を亡くして以来、人の背後霊が見えるようになってしまった主人公。特殊な能力を見込まれて、人捜しを依頼される。どこかで妻の霊に会えることを期待して探偵のまねごとを始めるが、手がかりの奇妙なカードをめくり、不穏な出来事が次々と起こる。一応、探偵ものとして読んでいたらSFというかファンタジーへと様変わり。 ほんわかしているのは良いが物足りない。
11	0527-0528	なぜ絵版師に頼まなかったのか	北森 鴻 光文社 1,575円		変革の嵐が吹き荒れる、明治年間の帝都。帝國大学には多くの雇われ外国人が教師・研究者として赴任していた。エルウィン・フォン・ベルツ先生もその一人。並はずれた日本びいきで知られるベルツ先生とその弟子・葛城冬馬が、次々に起こる新時代の事件に挑む。 当時の世相をからめまあ面白く読める。 題名は空耳アワーみたいだがクリスティの「なぜエヴァンスに頼まなかったのか」をもじったものと思われる。

12	0530-0601	どこの街の片隅で	赤井三尋 講談社 1,785円		街の片隅で、ひっそりと暮らす人々に、ある日、忍び寄り、ほんの小さなボタンの掛け違いが、人を狂わせ、事件を引き起こす。人生の痛みと苦みを描いた掌編10編。気に入った作品は「花曇」。栄光の中に生きてきた老棋士に翳りが見え始め娘の結婚、気鋭の挑戦者を向かえ対局に臨む心境を綴った清清しさが印象に残る。
13	0531-0531	雪とパイナップル	鎌田実 集英社 1,575円		チェルノブイリの放射能汚染で白血病になった少年と、日本からやって来た若い看護師との心の交流。死を間近にした少年の最後の望みがパイナップルだった。厳冬にして僻地においてはつましいものであっても調達するのは困難なことだった。子供時代、病気になったときにしか食べられなかったバナナや缶詰の記憶が蘇る。何より表紙の絵は見ているだけで元気がもらえる。
14	0602-0603	不思議な名画座	赤川次郎 角川文庫 540円		探そうとしても、見つからない。いつかどこかに現れる、「ふしぎな名画座」。そこでは、ただ一人のためだけに、懐かしい映画が上映される…。「(逢びき)のあとで」「(天使の詩)が聞こえる」「(ローマの休日)届」など、9編の名画をモチーフにした連作短編集。著者には他にも「悪魔のような女」、「血とバラ」など映画をモチーフにした短編集がありいずれも映画の雰囲気上手く取り込んでいて好きなシリーズだ。
15	0604-0607	章説トキワ荘の春	石ノ森 章太郎 清流出版 1,680円		漫画家の梁山泊と言われたトキワ荘の思い出はいろいろな作家が作品に残している。それぞれ読んでみると一つの出来事が多岐にわたって関わりを持っていたことを知り興味深いものがある。
16	0607-0609	妊娠カレンダー	小川洋子 文春文庫 420円		Caccoさんから貰った本。出産を控えた姉に有害物に染まったジャムを食べさせる妹。妊娠をきっかけとした心理と生理のゆらぎを描く芥川賞受賞作「妊娠カレンダー」。謎に包まれた寂しい学生寮の物語「ドミトリイ」、小学校の給食室に魅せられた男の告白「夕暮れの給食室と雨のプール」。悪夢のような三篇の小説。雰囲気は面白いが謎が謎のままというのも不満が残る。
17	0608-0608	すすれ麺の甲子園	椎名誠 新潮社 1,470円		小説新潮に06～07年にかけて連載されていた「麺の甲子園」を改稿・改題した作品。日本全国の麺を食べまくり、独断と偏見？で日本一の麺を決定するという企画物。予約をしないで突撃ルポ風に訪れるところに臨場感があっていい。
18	0610-0610	蛇にピアス	金原ひとみ 集英社文庫 400円		Caccoさんから貰った本。芥川賞史上最年少(19歳)の受賞。ピアスにはまる現代の若者を描いた物語。耳のピアスはまだしも鼻や舌のピアスには嫌悪感が湧く自分としては好きにはなれないが文章はうまい。過剰に猥褻な単語を使うのは若者特有の自己否定の感情からかも。刺青や体の改造に走るのも自己変革への表れとも取れる。

19	0611-0611	鉄道の達人	横見浩彦 竹書房文庫 630円		外界から切り離された秘境駅、山の景色・海のパノラマそれぞれの三大車窓、ネコ耳つけた萌え列車を発見!、駅弁大会37連覇のモンスター駅弁、SuicaやICOCAでどこまで行けるのか?、テツの登竜門「時刻表検定」など。マンガ「鉄子の旅」の横見浩彦の2008年1月現在での最新でテツな情報満載!、テツでなくても楽しめる一冊。
20	0612-0614	夏の吐息	小池真理子 講談社文庫 540円		この作者のイメージといえばホラー。そのつもりで読み始めたら大人の女性の愛の形を綴った短編集だった…。
21	0617-0618	心霊探偵八雲1 赤い瞳は知っている	神永学 角川文庫 580円		霊を見たり、会話できる能力を持つ大学生・斉藤八雲。ある日、大学で起こった幽霊騒動を調査することになる。パートナー役の女子大生春香との会話のやりとりの口調が気に入りまいち作品に乗り込めなかった。
22	0619-0626	松本清張あらかると	阿刀田高 知恵の森文庫 880円		アリバイ崩し、動機の追求、伏線の張り方、タイトルのつけ方…。熱烈なファンを自任する著者が、実作者としての視点から、創作の裏側とともに、数多くの名作を残した巨匠の「謎」を解き明かしていく。清張の作品は人間模様が浮き彫りになる作品が多く映像化されたものも数多いが一冊で簡明に解説していて共感できる部分も多い。
23	0627-0630	心霊探偵八雲2 魂をつなぐもの	神永学 角川文庫 580円		次々と起こる連続女子中学生誘拐殺人事件。幽霊騒動と誘拐事件が複雑に絡み合う謎に巻き込まれる八雲。
24	0701-0704	平台がおまちな	大崎梢 創元クライム・クラブ 1,575円		中規模出版社明林書房の新人営業マン井辻智紀。自社の本を一冊でも多く平台に置いてもらうため日々奮闘する井辻君が謎説く、書店と本のミステリー。本好きな自分は興味が湧くが、本屋にとって本を揃えることが本屋の力量。本を置いてもらう営業というのは比較的大型書店だと思えば親近感が湧かない。
25	0705-0713	笑う警官	佐々木譲 ハルキ文庫 720円		北海道警察を舞台に、札幌市内で発生した婦警殺害事件の容疑者である現役警察官の無実を証明し、真犯人をつきとめようと独自に捜査を始める数名の警官を描いた作品。実際に問題となった裏金や、現職警官による犯罪と重なる要素が大きく新鮮味に欠けるところが難点。

26	0714-0716	家守綺譚	梨木香歩 新潮文庫 380円		今からおよそ百年前、亡き友の実家に家守として住みこむ綿貫征四郎は駆け出しの物書き。庭付き池付きの二階家にひとり、悠々自適の暮らしだが、隣人に和尚さん、身近な動植物、さらには亡友まで征四郎にちょっかいを出しては珍事を引き起こすが平然と受け止める征四郎。歳時記の中に入り込んだような気分になる作品
27	0717-0721	カタブツ	沢村凜 講談社文庫 660円		家庭がありながら運命的な出逢いをしてしまった二人、人の世話ばかり焼いてしまう癖を恋人に咎められる青年、息子が事故に遭遇しても足がすくんで助けられない夢にうなされる母親、隣室の女性がスカーに殺されたのに何もなかったと非難される男。誠実で不器用な人々の窮地を描いた短編集。
28	0722-0724	ホルモー六景	万城目学 角川書店 1,365円		鴨川ホルモーのスピノフとなる連作短編6話。前作を読んでないと何が何だかわかりません。京大青竜会だけでなく、他校メンバーの裏話、新島襄もクラーク博士もホルモーつながりのエピソードありで本編より面白い。個人的にはローマの休日をもじった表紙の凡ちゃんの章が面白かった。
29	0725-0731	向日葵の咲かない夏	道尾秀介 新潮文庫 660円		夏休みを迎える終業式の日。先生に頼まれ、欠席した級友の家を訪れた時、S君は首を吊って死んでいた。だが、つかの間に彼の死体は忽然と消えてしまう。一週間後、S君はあるものに姿を変えて現れ「僕は殺されたんだ」と訴える。僕は妹のミカと、彼の無念を晴らすため、事件を追い始める。「藪の中」のように次から次へと新たになる事実。少々アンフェア気味でもあるラスト。
30	0801-0802	カウンセラー 完全版	松岡圭祐 角川文庫 660円		カリスマ音楽教師を突然の惨劇が襲う。一家4人が惨殺されたのだ！犯人は13歳の少年だった…。法で裁かれぬ少年への憎悪を抑えられない彼女の胸に怪物が宿りついに一線を超える。臨床心理士・嵯峨敏也は彼女の完璧な音感を逆手にとって犯した罪を立証しようと企てる。漫画のサイコ・ドクターの雰囲気があっていい。
31	0803-0805	白い部屋で月の歌を	朱川湊人 角川ホラー文庫 580円		ジュンは除霊のアシスタントをしている少年。仕事は霊魂を体内に受け入れること。彼にとっては霊たちが自分の内側の白い部屋に入ってくるように見えている。ある日、殺傷沙汰のショックで生きながら霊魂が抜けてしまった少女・エリカを救うが、白い部屋で会ったエリカの面影に恋をしてしまう。幻想的な語り方が印象に残る作品。
32	0807-0810	おそろし三島屋 変調百物語事始	宮部みゆき 角川書店 1,785円		ある事件を境に罪悪感を抱いた17歳のおちかは心を閉ざし神田三島町の叔父夫婦に預けられる。おちかを案じた叔父は、人々から「変わり百物語」を聞くよう言い付ける。不思議な話は心を溶かし、やがて事件も明らかになっていく 以降、続刊があるようだがこの本だけでたったの五話のみで百話まで書くつもりなのか？

33	0811-0815	ベルカ、吼えないのか？	古川日出男 文春文庫 570円		1943年、キスカ島に残された四頭の軍用犬北・正勇・勝・エクスブロージョン。彼らを始祖として交配と混血を繰り返しかえし繁殖した無数のイヌが国境も海峡も思想も越境し、“戦争の世紀＝20世紀”を駆けぬけたイヌたちの系譜を冒険小説風に綴ったもの。南極物語を思わせるような語りあり。著者が自作に酔っている感じがする部分があるのが気に入らない。途中卑猥な表現があるのは却ってこの作品にふさわしくないように思えた。
34	0819-0819	容疑者Xの献身	東野圭吾 文春文庫 660円		ガリレオシリーズ初の長篇ミステリー。高校の数学教師・石神は、弁当屋に勤める花岡靖子の住むアパートの隣人で密かに靖子を思っていた。靖子と娘が前夫を殺害してしまったと知った彼は二人に力を貸すと申し出る。いつもは物理的トリックが売りのシリーズだが今回はちょっとした心理的トリックを用いてアリバイ工作をする。途中、読者が疑問に思う箇所も巧みにトリックへの伏線になっているところが憎い。最後まで、トリックが何か予想できず一気読み。
35	0820-0820	ちい散歩 地井さんの絵手紙	地井武男 新日本出版 1,680円		地井武男が散歩する番組「ちい散歩」。番組の中で印象に残ったものを散歩の締めとして描く絵手紙を一冊の本としてエッセイを添えたもの。番組のファンであることから購入。
36	0821-0821	手紙	東野圭吾 文春文庫 620円		強盗殺人の罪で服役中の兄、剛志から弟の直に月に一度の手紙が届く…。しかし、進学、恋愛、就職と、直貴が幸せをつかもうとするたびに、「強盗殺人犯の弟」という運命が立ちはだかる苛酷な現実。極端と思うほどに厳しい言葉をかける社長に憤りを感じるが反面、読者ならどう対応するか投げかける意地悪な作品でもあり犯罪被害者の家族を真正面から描いた作品。
37	0822-0822	煉瓦女工	野澤富美子 第一公論社		昭和15年5月(1940年)に刊行。戦時下、京浜工業地帯は日本の兵器庫と化し、潮田地区も労働者があふれ、独特の雰囲気にも包まれていた。貧困のため病苦をおして働く生活が描かれ、当時の潮田・生麦のようす・暮らしぶりが伝わってくる。自分の実家は生麦にあり書かれた当初、地元では恥部を書かれた思いで反感を買ったと聞かす描かれている風景は子供の頃の記憶と重なる。著者も生麦の出身。
38	0823-0825	佐久間象山	童門冬二 講談社文庫 770円		黒船で来航したペリーが唯一頭を下げた相手といわれる幕末最大の知識人、佐久間象山。国際人としての自覚を持ち、日本のナポレオンと自称した彼は、自由奔放に、決して私利私欲を持つことなく、我が国が進むべき針路を説き示した。純粋な精神を持ち続けた彼の、孤高にして波乱万丈の生涯を描く歴史ドキュメント。

39	0826-0827	誰だってズルしたい	東海林 さだお 文芸春秋 520円		くだらないけど毎度ながらネタを探し出す観察眼に脱帽！
40	0827-0828	警察庁から来た男	佐々木譲 ハルキ文庫 660円		道警シリーズ『笑う警官』の続き物。 北海道警察本部に警察庁から特別監察が入る。監察官は警察庁のキャリアである藤川警視正。藤川は、半年前、道警の裏金問題の為に百条委員会であつた(証言した)津久井刑事に監察の協力を要請する。一方、その津久井を罠にはめようとする動きがありこれを阻止するために札幌大通署の佐伯刑事たちが動く。
41	0829-0901	繋がれた明日	真保裕一 新潮文庫 780円		挑発され、怒りに駆られてナイフで一人の命を奪った。少年が仮釈放される。彼は人間味溢れる保護司に見守られ、不器用ながらも新たな道を歩みだしていたが、殺人の罪を告発するピラが撒かれる。誰が？何のために？真相を求め隆太は孤独な旅を始める
42	0902-0903	東京バンドワゴン シー・ラブズ・ユー	小路幸也 集英社 1,575円		古本と共に舞い込む謎を解決する下町ラブ&ピース小説。「東京バンドワゴン」で繰り広げられる、涙と笑いの物語第2弾。今日も「古本」と「家族」にまつわる事件が持ち込まれる。赤ちゃんが置き去りに！？…他、春夏秋冬の章の4編を収録。
43	0903-0904	斬られ権佐	宇江佐真理 集英社文庫 580円		TICAさんお奨めの本。 惚れた女を救うため、八十八の刀傷を負った権佐は「斬られ権佐」と呼ばれるようになり救った女と結ばれる。本業は仕立て屋を営むが、裏では兄貴分にあたる八丁堀の与力・数馬の捕り物を手伝っている。押し込み、付け火、人殺しなど下手人を捕らえるが下手人の持つ弱さと哀しみを知るようになる。気に入らないのは救った女は元はと言えば兄貴分の数馬が想っていた人。救った理由を自分から人目惚れしたからというのは男としては反則だと思うのだが。
44	0905-0906	バケツ	北島行徳 文春文庫 620円		マッチョだが気が弱い神島は、就職先の養護施設で「バケツ」というあだ名の少年と出会う。やや知的障害と盗癖があり、親兄弟にも見放された彼と同居を始めた神島は、生活費を稼ぐため、日焼けサロンや無認可保育園を立ち上げるが、トラブルが続く…。理由なき愛を描いた表題作「バケツ」を含む連作小説集。 余り現実的でなく共感が湧かない。

45	0907-0909	おれたちの街	逢坂剛 集英社 1,680円		事件は珍妙、捜査は迷走。御茶ノ水署生活安全課の、凸凹コンビが挑む難事件の数々。本書はシリーズ4作目らしいが前3作は読んでいない古書街のある神保町が舞台のため馴染みのある店の名前も出てきて面白く読めた。凸凹コンビも小ずるいところが異色。
46	0910-0912	さまよう刃	東野圭吾 角川文庫 740円		長峰の一人娘・絵摩が花火大会の帰りに、未成年の少年グループによって蹂躪され殺害される。謎の密告電話によって犯人を知った長峰は、娘の復讐に乗り出す。犯人の一人を殺害し、さらに逃走する父親を、警察とマスコミが追う。正義とは何か。誰が犯人を裁くのか。世論を巻き込み、事件は予想外の結末を迎える。
47	0913-0914	陽気なギャングが地球を回す	伊坂幸太郎 祥伝社文庫 660円		嘘を見抜く男、スリの天才、演説の達人、絶対体内時計を持つ女、この4人は向かうところ敵なしの銀行強盗！ロマンを求めて極力人を傷つけない陽気なギャング達！銀行で繰り広げられる強盗という名の数分の舞台！この華麗な強盗さばきに不穏な陰。奪った金を奪われる？！スピード感のあるストーリー展開にどこか愛らしいギャング達。昔の映画「黄金の7人エロチカ大作戦」を思い出させる
48	0915-0917	夜のピクニック	恩田陸 新潮文庫		高校生活最後を飾るイベント「歩行祭」。それは全校生徒が夜を徹して80キロ歩き通すという、北高の伝統行事。甲田貴子は三年間、誰にも言えなかった秘密を清算するため「歩行際」に臨む。学校生活の思い出や卒業後の夢などを親友たち語らいつつひたすら歩く。やがて夜という魔法が真実の心を開かせてゆく青春小説。 読み終えて一種の清しさが残る作品。
49	0918-0920	西の魔女が死んだ	梨木香歩 新潮文庫 420円		引きこもりで人一倍感受性ゆたかな少女・まいが、森の中で祖母と同居し自然とふれあう中で、もてあまし気味の鋭い感性をコントロールする訓練を積み、上等な魔女(自立?)をめざすという物語。祖母は魔女を名乗るものの魔法を見せるわけではなくまいを煙に巻き、ものの哀れや人の機微を自分で知るよう規律を設けてゆく。今さら自分が読む本ではなかったなあという感じ。
50	0918-0926	1リットルの涙 -木藤亜也の日記	木藤亜也 幻冬舎文庫 560円		15歳の夏、進行性の病魔が少女から青春を奪う。数々の苦難が襲いかかる中、日記を書き続けることを支えとし最期まで懸命に生きた少女の日記と娘の不治の病を宣告された母親の手記 屋の再放送で見たTVドラマに感涙し購入。映画版もDVDをレンタルで見る。
51	0918-0924	1リットルの涙 -母の手記-	木藤潮香 幻冬舎文庫 560円		映画版はドキュメンタリー調。ドラマは母親が娘にも恋愛をさせてあげたかったという想いを汲み恋愛ドラマの色が強い。好きなタイプではないが沢尻エリカの演技は良かった。舞台挨拶事件で干された状態になっているのは残念。薬師丸ひろこの母親役も板についている。何より冷静に自己をみつめて書かれた文に感心する。


52	0927-0928	きみの友だち	重松清 新潮文庫 620円		ある事件で足が不自由になった恵美ちゃんと病気がちな由香ちゃんは、クラスのみんなからのけものになされていたが。縄跳び対抗のお持ちの役を割り当てられたのをきっかけに友だちになる。集団の中に真の友だちは無いと悟った恵美ちゃんは自らみんなとは一線を引くようになり他人の友だち関係の危うさ・滑稽さに気づく。そんな彼女に不思議に友だち関係に悩む者たち(ライバルに嫉妬する弟、優等生、ひねた奴。弱虫、八方美人等)と接する機会が訪れる。恵美ちゃんはそれぞれ悩みの本質を見抜き、さりげない一言でメッセージを送り、自身で解決できるよう仕向ける。「友だち」とは何かを考えさせられる連作長編で恵美ちゃんのかっこ良さが際立つ。文庫化で書き加えたという恵美ちゃんの結婚披露のエピソードは余計の気がする。
53	0929-1001	セカンドライフ	藤田宣永 角川文庫 780円		高校の同級生がくれた本。セカンドライフを意識する年代でもあり参考になるかと思って買ったらしい。が参考にならなかったと言っていた。リストラされ、女房に熟年離婚された上条真二郎は、なにもやる気がない毎日を向島のマンションで送っていた。ある日、真二郎は出版社に勤める、大学時代の友人から官能小説を書くことを勧められたことがきっかけで不思議な出会いをし、恋愛、生きる張り合いを見つける。確かにこう話がうまくいって参考にはならんわな。
54	1001-1002	魔王	伊坂幸太郎 講談社文庫 650円		ある意思によって世界を戦争へと導こうとしている風潮があると人知れず不安を持つ社員の安藤は自分が念じれば、それを相手が必ず口に出すことに偶然気がつく。この能力を使って最も警戒している議員の失言を図り失脚させようとするが失敗しSPIに射殺される。 兄の意思は弟に受け継がれ「モダンタイムス」へと続くらしいが一昔前のSFテーマの一つみたいで続きはもういいやという感じだ。
55	1003-1003	クローズド・ノート	栗井脩介 角川文庫 700円		教師を目指す香恵は文具店でのアルバイトと音楽サークルの活動に勤しむ大学生。引越先のアパートのクローゼットで、前の住人が置き忘れたノートを見つけ、興味本位でそのノートを開いたときから、彼女の平凡な日常が大きく変わり始める。 「1リットルの涙」の沢尻エリカの演技力と舞台挨拶の愚行のギャップに釈然としないものがありDVDを本より先に観た。ストーリー自体は予測もつき、たいした話ではないが万年筆の小道具・エピソード、ロケ地の良さ、マンダリンの音色などが琴線に触れ結構好きな映画だった。見た後、無性に万年筆が欲くなりました。。それで本も読んでみたが結論から言うと映画のほうが原作の登場人物の行動を削ったり、入れ替えを行ってすっきりさせていてよい。主人公の香恵の性格も本は現実的な性格が垣間見えるのが少し減点だがcaccoさんTICAさんが言うほどチョーつまらなくはないと思うんだけどなあ。 この物語、オチは想像できるのでラストをどういうシチュエーションを用意するかがこれが結構難しく映画も本も成功とは言い難い。

56	1004-1004	コンダクター	神永 学 角川書店 1,575円		ミュージカルのオーケストラピットのメンバーとして、音大時代の仲間と再会を果たした朽木奈緒美は、ある場所で謎の変死体が発見されてから、おかしなことが起こり始める—毎夜の悪夢、アパートの窓から外を見つめる首無し白骨、次第に壊れ始める友情、そして怪事件を狂信的に追う刑事…音楽を奏でる若者たちの日常が、一見つながりのない複数の出来事で崩壊の道をたどり始める。そして自らの欠落した記憶を追ううちに暗黒の渦に巻き込まれてゆく。全体の雰囲気はホラーじみていてDGの「不思議な夢」みたいで期待したが謎解きの人物はこれ反則でしょう！まあシリーズ化して帳尻を合わせるべきかなと思った次第。
57	1005-1007	ドールズ 月下天使	高橋克彦 角川書店 1,995円		警察学校で剣道を教える腕前だという女性・聖夜がドールズのアルバイトに加わる。謎めいた彼女の心に宿る恐ろしき殺意と決意。小学生の少女・怜の中に棲む江戸の天才人形師・目吉が謎を解き明かす。シリーズ第4作、前作から9年たち当初のおどろおどろした雰囲気が薄れているのが気になる。
58	1008-1009	羊羹合戦	火坂雅志 小学館文庫 630円		秀吉の“紅羊羹”を超える羊羹を作れ—。直江兼続より、翌年行われる関白主催の花見の会での上杉家の羊羹作りを任された庄九郎。練り越後ならではの羊羹を求めての戦いが始まった(「羊羹合戦」)。国学者・荷田春満が忠臣蔵の一件に関わっていたという、「桂籠」。亡き父親の想いを胸に、藩主の命による黒鯛釣りに土道を尽くす男を描く「釣って候」など、さまざまな趣向を凝らした全八篇。時代小説としてはあまり取り上げられていない人物や史実の裏話にスポットを当てているところが新鮮。表題の「羊羹合戦」はラストが何とも皮肉。
59	1010-1010	宿命	東野圭吾 講談社文庫 650円		高校時代の初恋の女性と心ならずも別れなければならなかった男は、苦闘の青春を過ごした後、警察官となった。男の前に十年ぶりに現れたのは学生時代ライバルだった男で、奇しくも初恋の女の夫となっていた。刑事と容疑者、幼なじみの二人が宿命の対決を果す。 東野圭吾のストーリーテラー振りが発揮されていて一気読み。
60	1011-1013	幻の声	宇江佐真理 文春文庫 500円		TICAさんお奨めの本。 本業の髪結いの傍ら、町方同心のお手先をつとめる伊三次。芸者のお文に心を残しながら、今日も江戸の町を東奔西走…。 満場一致でオール読物新人賞を受賞したデビュー作というふれこみだがこのシリーズ、伊三次の捕り物を手伝う理由が希薄。もぐりの髪結いを黙認されているなんてのは一種の齟齬に屈している訳でこっちから願ひ下げだし同心の性格・行動も納得できないところが多いのも好きになれない理由。

61	1014-1020	文鳥・夢十夜	夏目漱石 新潮文庫 420円		<p>人に勤められて飼いだめた可憐な文鳥がちよつとした不注意からあっけなく死んでしまうまでを淡々とした筆致で描き、著者の孤独な心持をにじませた『文鳥』、意識の内部に深くわだかまる恐怖・不安・虚無などの感情を正面から凝視し、〈裏切られた期待〉〈人間的意志の無力感〉を無気味な雰囲気をもたせつつ描き出した『夢十夜』ほか、『思い出す事など』『永日小品』等全7編。やさしい言葉も漢字で書かれているので文脈で推測して読み進めたが現代人の漢字能力の低下を知る一冊ともなった。</p>
62	1016-1017	神様の愛したマジシャン	小石至誠 徳間書店 1,365円		<p>芸人で手品師のナポレオンズ・パルト小石が明かすマジシャンの人生と種無しの魔術！エッセイの面白さが詰まった自伝的フィクション。多少の種明かしもあって面白くよめる。</p>
63	1018-1018	流星の絆	東野圭吾 講談社 1,785円		<p>ハヤシライスが看板メニューの洋食店『アリアケ』の経営者夫妻が殺された。功一、泰輔、静奈の三兄弟がペルセウス座流星群を見に出ていた間の惨劇だった。泰輔は店の裏口から出ていく男を目撃したが、犯人特定は難航し、時は流れる。14年後。ひっそりと肩寄せ合ってきた三人は、静奈と功一がたてつけに騙されたことで、静奈の美貌を利用した結婚詐欺で生き抜いていく。その最後のターゲットが、レストランチェーン『とがみ亭』の御曹司・戸神行成。功一のたてた作戦で、擬態名人の泰輔と静奈は行成に近づく。だが——泰輔が見た行成の父親は、あの夜に目撃した男だった。静奈が口にした『とがみ亭』のハヤシライスは父親の味だった。功一は、結婚詐欺ではなく、両親の仇を討つことを決意する。10月からTV放送が始まっているが少々おちゃらけた演出になっているのが気に食わない。三人の行う詐欺は東野圭吾の作品にしては甘い。珍しくラストはハッピーエンド。TVだと重要な伏線が映るのかと一回目の放送ではついそこを注目していました。しっかり映っていたけどその後の回想シーンではさすがに映さない。</p>
64	1019-1020	ジョーカー・ゲーム	柳広司 角川書店 1,575円		<p>魔王と呼ばれる結城中佐の発案で陸軍内に設立されたスパイ養成学校“D機関”。「スパイとは“見えない存在”であること」「殺人及び自死は最悪の選択肢」。これが、結城が訓練生に叩き込んだ戒律だった。軍隊組織の信条を真っ向から否定する“D機関”の存在は、当猛反発を招いたが、頭脳明晰、実行力でも群を抜く「魔王」—結城中佐は、魔術師の如き手さばきで諜報戦の成果を挙げ、陸軍内の敵をも出し抜いてゆく。「陸軍中野学校」のはるか上を行くメンバーのエピソード、同じ組織でありながら陸軍上層部からの陰謀を手もなくひねる痛快さ、加えて当時の世相、軍人の考え方も伏線に取り込み近來、稀に読む面白い作品だった。</p>

65	1020-1024	寡黙な死骸 みだらな吊い	小川洋子 中公文庫 680円		Caccoさんから貰った本。 息子を亡くした女が洋菓子屋を訪れ、鞆職人は心臓を採寸する。内科医の白衣から秘密がこぼれ落ち、拷問博物館でベンガル虎が息絶える。時計塔のある街にちりばめられた、密やかな吊いの儀式はすべてどこかで繋がっていて迷宮に入り込んだような雰囲気させられる連作短篇集。これだけ緻密な構成で書いて何を言いたいのか作者の意図が理解できないでいる。
65	1021-1025	プロ棋士の思考術	依田紀基 PHP新書 735円		優れた大局観をもつと評される名人位4連覇の囲碁棋士が、囲碁の打ち方、日々の生活を通して、ものの見方・考え方を具体的に語る。 かつては世界一の実力を誇った日本も今や韓国・中国の後塵を拝している。その中で世界戦に好成績を残している依田は好きな棋士の一人とあって購入。
66	1026-1028	ガリレオの苦悩	東野圭吾 文芸春秋 1,600円		福山雅治が物理学者・湯川を演じて映像化され、ベストセラーとなったガリレオ・シリーズ。 『探偵ガリレオ』『予知夢』に続く3冊目の短編集収録されているうちの2作はすでにドラマ化されている。必ずしも積極的に警察に協力し、喜んで謎を解いているわけではない湯川の“苦悩”を描いている。
67	1029-1031	聖女の救済	東野圭吾 文芸春秋 1,700円		ガリレオシリーズの最新刊。 夫が自宅で毒殺されたとき、離婚を切り出されていた妻には鉄壁のアリバイがあった。草薙刑事は美貌の妻に魅かれ、毒物混入方法は不明のまま。湯川が推理した真相は一虚数解。理論的には考えられても、現実的にはありえないという結論。 最後の最後まで、犯人は分かっているが謎が解けなかった。実際のところ確かに単純かつ不可能ではないが現実的にはありえないトリックだった。この謎一つで長編にしてしまうところはさすが。
68	1102-1105	犯罪小説家	雫井脩介 双葉社 1,575円		新進作家、待居涼司の出世作『凍て鶴』に映画化の話が持ち上がる。脚本家の小野川充は『凍て鶴』に並々ならぬ興味を示し、この作品のヒロインには、かつて伝説的な自殺系サイト[落花の会]を運営していた木ノ瀬蓮美の影響が見られると、奇抜な持論を展開する。待居の戸惑いをよそに、さらに彼は、そのサイトに残された謎の解明が映画化のために必要だと言い、待居を自分のペースに引き込もうとしていく。そんな小野川に、待居は不気味さを感じ始め。全篇に充ちた不穏な空気。好奇心と恐怖が交錯する。小野川の行動・言動がうざったく少々シラケル。大筋はまあまあだが話の流れには相当無理がある。

69	1103-1105	ちい散歩 昭和の風景	地井武男 学研MOOK 1,260円		テレビ朝日放映の「ちい散歩」の人気コーナー「昭和の風景」をベースにした、俳優地井武男氏のお散歩エッセイ集。
70	1106-1106	週刊新潮が報じたスキャンダル	「週刊新潮」 編集部 新潮文庫 620円		人は所詮、金と色と権力に群がる。人間の奥底に隠れた本質が噴き出すとき、世間はそれをスキャンダルと呼ぶ。昭和三十一年の創刊以来、喝采を浴びた美談、時の英雄の姿の裏をスクープした政財界事件から皇室報道、芸能ゴシップまで、半世紀に亘る膨大な記事の中から選りすぐった集大成。写真も豊富で懐かしい写真も多い。
71	1107-1109	その日のまえに	重松清 文春文庫 620円		不治の病を宣告され「その日」に向かって生きる者と家族、友人などその行動を描き昨日常のなかにある幸せの意味を見つめる連作短編 少々作り過ぎている感じがしてまいちだった。結局こればかりは実際に起こってみないと自分の行動ってのはわからんのだろうなとは思う。
72	1110-1111	怪人二十面相・伝	北村想 小学館文庫 600円		怪人二十面相を主人公にした映画「K-20」の原作となった小説で「怪人二十面相」へのオマージュと言える作品。 江戸川乱歩の作品ではサーカス出身の遠藤平吉という記述があるだけで明かされることのなかった二十面相の生い立ちを創造し明智小五郎の実態にも新解釈を加えた世界を創り上げている。この本では初代「怪人二十面相」を平吉の師匠の武井丈吉としている。 懐かしき少年探偵団シリーズをなぞらえラストは二十面相と小林少年の対戦を描きPART II への伏線が終わっている。
73	1112-1113	怪人二十面相・伝 PART2	北村想 小学館文庫 560円		サーカスの天才・武井丈吉が扮した怪人二十面相が夜空に舞う気球に乗り、忽然と姿を消してから十年、丈吉の愛弟子であった遠藤平吉のところにひとりの男が訪ねてくる。男の名前は明智小五郎、頬はこけ、眼は落ち窪み、死期が近いことがうかがい知れた。明智は二十面相が残した数冊のノートを手に入れた。行方知れずとなっている師匠の注目を引くために、ひそかに二代目二十面相となることを誓っていた平吉は、ノートをもとに厳しい修行を始める。二十面相への復讐を胸に明智小五郎を継いだ小林との間に第二幕が切って落とされる。話題の映画「K-20」原作。怪人二十面相はサーカス団の出身だった。劇作家の著者が大胆な解釈で書きあげた前作を引き継ぎ、第二部では二十面相は如何にして怪盗となったのか、その核心が語られる。明智小五郎との宿命の対決もクライマックスに

74	1114- 1115	K-20 怪人二十面相・ 伝	百瀬しのぶ 小学館文庫 500円		映画は前記2作とは趣きが一変している。第二次大戦を回避した日本を舞台に、サーカス団員の遠藤平吉が怪人二十面相と間違われるところから話は始まる。平吉を陥れた二十面相を追い、名探偵・明智小五郎とその婚約者・葉子を巻き込み、事態は意外な展開に。乱歩は好きだがあのおどろおどろしい雰囲気や現代に蘇らせるのは難しいと思える。この内容だと二十面相でなくてもいいような気もする。
75	1116- 1119	おらんくの家	山本一力 文春文庫 570円		“おらんく”とは土佐弁で「おれの家」のこと。愛する故郷・高知から上京して四十年。二十一世紀の江戸に暮らす、山本家の日常エッセイ第一弾。効果的なセールストーク、道中疲れを治す秘伝、贈り物の極意—生きていく上で役立つ“一力流格言”など氏の生き方が見えてくる。
76	1120- 1122	茗荷谷の家	木内昇 平凡社 1,470円		新種の桜造り(染井吉野)に心傾ける植木職人、乱歩に惹かれ、世間から逃れ続ける四十男、内田百閒と思いきや、開戦前の浅草で新しい映画を夢みる青年—。幕末の江戸から昭和の東京を舞台に、百年の時を超えて、幾分厭世的だが頑ななこだわりを持つ9人の夢や挫折が交錯し、因果が廻り合う。哀愁感・寂寥感が漂うが心に染み入る不思議な連作物語集。エピソードによっては中途半端な終わり方をしているものもあるが全部を読んで一話として捉えるべき本でもある。

